

## I 目的

大分県の校内研究・校内研修について、インタビュー調査等を通して実践事例を収集し、組織的な学校課題解決に資する新たな校内研究手引書の内容に反映し、大分県の更なる校内研究・校内研修の推進に資する。

## II 内容

2年次では、1年次のアンケート調査から明らかになった課題（時間確保、成果の積み上げに関する取組や工夫、組織的取組等）について、成果を挙げ、教職員の基本的心理欲求（自律性・有能感・関係性※）充足が高い6校を研究協力校として選定し、組織的な学校課題解決に取り組んでいる実践を収集・分析した。各校でのインタビュー内容や校内研修・校内研究を参観し、収集したデータをもとに、以下の5つポイントを共通項として整理し、校内研究手引書に反映した。

※ Deci & Ryanが提唱した自己決定理論における重要な要素

- ① 「目指す子どもの姿」からスタートし、学校の課題を共有する
- ② 子どもの姿（発言・行動・記述）を手がかりに語り合い、改善につなげる
- ③ 研究主任が抱え込まず、チームで進めるしくみをつくる
- ④ 時間と資源を計画的に確保しつつ、柔軟に運用する
- ⑤ 心理的安全性の高い、学び合う文化を育てる



### 【研究協力校】

- ・宇佐市立四日市北小学校
- ・佐伯市立佐伯小学校
- ・別府市立中部中学校
- ・臼杵市立西中学校
- ・玖珠美山高等学校
- ・日田三隈高等学校

「つながる・つなげる校内研究」に向けた  
対話する手引書

次年度以降、この調査研究をもとに作成した上記の手引書の活用を進めていく。組織的な課題解決に向けた校内研究の進め方、子どもの姿から語り合う校内研究についての実践事例、心理的安全性や同僚性を高める工夫、管理職・ミドルリーダーの役割や校内体制づくり等、さらに、データの活用、組織づくり、年間の流れについて詳細に掲載した。R6年度の新任研究主任（小・中）のうち、在職期間7年以下が33%であるため、新任研究主任が活用しやすいよう、Q&A形式で、実践例とともに分かりやすく整理した。校種を問わず活用できる実践事例を県内の学校に示すことで、児童生徒の学びの質を高めるとともに、教職員のやりがいを支える組織的な校内研究・校内研修の推進につなげていきたい。